

課題分析	授業改善推進プラン
<p>1. 知識・技能 単元別漢字ノートを活用し、単元ごとに習った新出漢字を学習し、漢字テストを通して習得・定着を図った。多くの生徒が高得点を安定して取ることができているが、自ら学習に向かうことができない生徒も数名おり、大きな差がある。 古典の学習では、漢文の学習を通して、返り点・送り仮名といった訓点についての復習を行い、さらに漢文特有の表現技法等の学習を通して、知識の定着を図った。昨年度まで学習してきた内容についても定着している生徒が多いが、漢詩の音読を通じ、知識や情景をとらえることが概ねの生徒ができていた。ただし、漢詩の知識を習得できていない生徒もいる。文法事項などの知識については、定着に個人差が大きい。</p> <p>2. 思考・判断・表現 ①話すこと・聞くこと 社会生活の中から話題を決め、相手を説得できるように構成を工夫することを目標にスピーチを行った。多くの生徒が身振りや手振りを交えながら大きな声で発表をすることができたが、インターネットで調べた事実のみを発表するにとどまってしまった生徒や、原稿を音読するにとどまる生徒もいる。授業時に行う聞くテストでは、共通点相違点を聞き分ける、聞いたことを記録することに依然として課題が見られた。</p> <p>②書くこと 構成を整え、「主張—理由付け—根拠」の論理の通った文章を書くことを徹底させた。また想定される反論に対して自分の考えを提示することで、スピーチに深まりをもたせるよう指導した。事実の発表にとどまっていた生徒、主張と根拠となるデータが繋がっていない生徒もいたため、主張、根拠と理由付けを分けて考える力を養うことが今後の課題である。</p> <p>③読むこと 文学的文章の読解 描写や表現から、人物の心情をとらえたり、文章に表れたものの見方や考え方をとらえたりする課題に対しては、深く考え取り組んでいる生徒が多い。ただ、描写や表現を根拠にせず、感覚的に考えている生徒も見られるため、言葉に着目して考える視点をもちたい。</p> <p>説明的文章の読解 「序論—本論—結論」の構成に従って、文章の内容を大まかにとらえることはできている。また、問題提起とそれに対する答えを結び付け、根拠と理由付けを見付けることができる生徒が多いが、その理解度には個人差が大きい。</p> <p>古典の読解 古典に関しては、資料を用いて漢詩に表れるものの見方や考え方を理解した上で自分の生活と関連付けて考える部分で課題が見られた。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度 単元の目標および本時の目標と評価が一体となった授業を目指し、単元の目標を常に提示し、毎時の目標を必ず提示するように授業を行っている。授業に意欲的に取り組める生徒が多いが、反応や発言には個人差が大きい。課題に積極的に取り組んだり、自分の考えを述べたりすることへの抵抗感</p>	<p>*今年度は文京区版学校感染症対策ガイドライン（新型コロナウイルス感染症）に則り、授業中のグループや少人数による話し合い・学び合いなどの活動を1授業あたり1回にとどめマスクの着用等飛沫防止に配慮したうえでやっている。</p> <p>1. 知識・技能 ・毎週の漢字テストは今後も継続する。自ら学習に向かうことができない生徒には個々に対応し、学習習慣を身に付けることができるよう指導をする。 ・古文4・漢文や文法事項に関しては、既習の学習事項を繰り返し復習する形式を今後も継続する。今後、既習事項を活用して内容を読み取っていく課題に移行するため、より熟考して答えを導き出すような発問の工夫を行う。</p> <p>2. 思考・判断・表現 ①話すこと・聞くこと ・大きな声で身振りや手振りを交えて発表するのは全ての発表活動の基本となるスキルであるので、今後も継続して指導し、全員ができるようになるようにしていく。 ・資料を提示してプレゼンテーションを行う際、調べた事実のみを述べるのではなく、そのデータと自分の考えをつなぐ理由付けを必ず行うよう繰り返し指導を行う。 ・自分たちで課題を設定し、どのようにしたら効果的に伝わるか、または聴衆に理解させることができるか、工夫すべき点を話し合うことができるような課題設定を継続する。 ・発表活動の後、自分の発表がどうであったかを自己評価するとともに教員やクラスメイトからのフィードバックを受け、次の発表に生かすことができるような授業形態を工夫する。</p> <p>②書くこと ・「序論—本論—結論」の構成に則って文章を書くことを徹底するよう今後も指導を継続する。 ・「主張—理由付け—根拠」の違いを明確にとらえ、自分の主張に対してなぜそのような主張をするのか、そのように考える根拠は何かをそれぞれ明確にしながらか文章を書くことができるよう指導を継続する。</p> <p>③読むこと ・教科書、多様な図書資料（書籍、新聞、その他メディアからの情報）を用い、様々な文章の内容・構成・表現に着目して的確に読み取る力をつける。 ・「文章を解釈する力」「根拠に基づいて考えを表現する力」を身につけるための課題を設定する。既習事項を活用しながら自ら文章を理解し説明する。また理解したことに基づいて、根拠を明確にして自分の考えを表現する課題の設定を行う。モデルとなる読みや他者の考えと比較し、知ったことを自分の読みに反映させる。これらの活動によって、「読むこと」の理解の深化を図る。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度 ・今後も意欲的な取り組みが継続できるよう、以下の取り組みを継続する。 ・単元の目標および本時の目標と評価が一体となった授業を目指し、単元の目標を授業中に常に提示する。また毎時の目標を必ず提示して授業を行う。</p>

をもたせない課題を提示していく必要がある。

板書・プリントについてはその時間にどのようなことを学習したか後になって振り返ることができるようにする。

文章に表れたものの見方や考え方をじっくりと考えたり、課題に向き合って自分の解答をじっくりと考えたりする活動に重点を置くことができるよう授業改善を行う。

・振り返りの時間を設け、目標と学習内容の確認を毎時間できるように工夫していく。

・授業中の活動に積極的に取り組むことが理解をすすめたり、読みを深めたりすることに最も効果的であることがわかるような授業中の活動を推進する。

・発言することに抵抗感のある生徒が極力少なくなるよう、グループ活動を積極的に取り入れ、自信をもって発言できるように下地を整える。

・小テスト等の取り組みに対し、自ら課題に取り組む姿勢が養えるような指導・声掛けの工夫を行っていく。また、希望する者には個別に小テストへの課題を出すなど、個に応じた対応を継続していく。